

2011年11月8日

熊本県知事	蒲島郁夫	様
熊本市長	幸山政史	様
阿蘇市長	佐藤義興	様
大津町長	家入 勲	様
菊陽町長	後藤三雄	様
高森町長	草村大成	様
南阿蘇村村長	長野敏也	様
西原村村長	日置和彦	様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康  
熊本市島崎4丁目5-13  
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

# 阿蘇くじゅう国立公園の保全と 白川の治水対策に関する要望書

～世界遺産登録をめざす阿蘇に、高さ90mの巨大ダムはいりません～

貴職におかれましては、「阿蘇くじゅう国立公園」の豊かな自然環境の保全、日本一の地下水都市・熊本の地下水の保全、そして白川流域の災害対策などに常日頃からご配慮くださっていることに、心から感謝申し上げます。

さて、国土交通省は白川で進める立野ダム計画で、ダムの必要性を検証する2回目の会合を10月14日に開催し、ダム以外の治水対策で複数の方策を組み合わせた治水対策案を県や流域の7市町村に示しました。しかし、今回の「立野ダム建設事業の検証に係る検討」は、ただ単に14の治水案を併記し、概算事業費を重視して評価しようとするものであり、極めてずさんです。立野ダム案を含む各治水案の環境に与えるダメージや危険度、完成までの工期の見通し、「想定外」の洪水が起きた場合の対処、ダムの撤去費用等まで含めて比較検証しなければ、科学的な検証はできません。

また、「ざる田」と言われ高い浸透能力を持つ流域の水田の保全は、治水対策案の組み合わせの対象に入れるべきです。洪水時に流域の水田約55k㎡を対象に20cm雨水をため込めるように畦を高くするだけで、約1100万㎡の容量があり、それだけで立野ダムの総貯水量約1000万㎡を超えます。

この「立野ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」の構成自治体の首長の皆様方に対し、以下要望をいたします。

立野ダムは、南阿蘇村の白川・黒川合流点のすぐ下流に計画された、高さ約90mの洪水調節専用の穴あきダムです。立野ダム予定地の左岸は国指定の天然記念物である阿蘇北向谷原始林で、「阿蘇くじゅう国立公園」の特別保護地区にも指定されています。立野ダム予定地自体も同国立公園の第三種特別地域に指定されています。立野ダムが建設されたならば、阿蘇北向谷原始林を含む同国立公園の広大な自然環境に致命的なダメー

ジを与えます。北向谷とダム予定地周辺のすばらしい溪谷は、国民の宝です。国立公園内にダムを造るべきではありません。高さ90mのコンクリートの巨大構造物（立野ダム）ができれば、世界遺産登録をめざす阿蘇にとって致命的なダメージとなります。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても、土砂や火山灰で早い段階で埋まってしまうことは明らかです。立野ダム工事事務所では、事業開始から30年近くが経過しているにもかかわらず、立野ダムの堆砂容量を検討中とのことです。このことは、立野ダムの堆砂問題の重大さを表しています。また、穴あきダムは大量の土砂をため込み、周辺の山林を荒し、環境に大きなダメージを与えます。洪水が終わった後もたまった土砂が流れ出し、長期間下流の川を濁すことは、川辺川上流の朴の木（ほうのき）ダムの例を見ても明らかです。

立野ダム予定地周辺の溪谷は、阿蘇カルデラ内の火山から流下してきた立野溶岩（溶結凝灰岩）で、冷却によって生じた角材状の割れ目（柱状節理）がよく見られ、巨大ダムを建設するには非常に危険な地質です。また、立野ダム予定地には、国内で地震発生確率の高い活断層である「布田川・日奈久断層帯」の一部である「北向山断層」が通っています。北向山林道を通り、立野ダム本体予定地左岸の地盤を見ると、多くの崩壊箇所が見られます。阿蘇の火山活動や地震などにより立野ダムが崩壊すれば、熊本市など下流域は大きな危険にさらされます。

また、ダムによる治水は想定以上の洪水には対処できず、洪水調節能力を失ったダムは災害源としかありません。現存する洪水調節専用の穴あきダムは益田川ダム（島根県）のみであり、治水効果が大きい疑問視されています。

立野ダムは1983年に事業開始されましたが、ダム本体工事は長年凍結状態が続いてきました。立野ダムは、ダム本体工事や仮排水路工事に着手されていないにもかかわらず、総事業費約425億円のうちすでに約405億円が使われています。平成23年度評価では、総事業費は当初計画の2倍以上の約905億円に膨れ上がりました。川辺川ダムなどの例を考えるとさらに事業費が膨らむことが容易に考えられます。この財政難の中、許されることではありません。

今後、立野ダム本体工事に着手するには、ダム基本計画の変更、白川の漁業者への補償交渉と同意、流域住民への説明など、これからも長い期間が必要です。しかし、下流の河川改修が計画通り進めば、白川の治水能力は大幅に向上します。球磨川流域では、ダムに頼らない新たな治水が検討されています。ダムへの依存度が球磨川よりもはるかに低い白川でも、ダムに頼らない治水は十分可能です。

県内の1級河川でダムがないのは、白川だけです。コンクリートのダムをつくるのではなく、阿蘇の草原を守り、白川中流域の農業を守ることが、白川の治水や熊本の地下水の保全にもつながります。立野ダムは、世界遺産登録をめざす阿蘇と白川流域の貴重な自然環境を破壊することは明白です。立野ダム建設中止を含め以下2点を要望します。

## 記

1. 立野ダム建設の即時中止を国土交通省に要請すること。
2. 立野ダム以外の治水対策の早期実現を国土交通省に要請すること。

以上